

高田援護室長の模型部屋(第3回)

皆さんこんにちは！GWはいかがお過ごしでしたか？

私は例年のとおりアキバへ買出しに・・・といたかったのですが、娘達が勉強や部活に忙しく、どこにも行かない連休でした。もっとも熊本へ災害派遣に向かっている仲間達や被災者の方々の気持ちを思えばなかなか心から楽しむというわけにはいかない・・・そんな連休でした。とはいいいながら、勉強している娘の横で、プラモをチマチマ作っていたのですが。

そんなわけで、今回は出来たばかりの・・・

61式戦車です。



過去にも61式戦車の作品を紹介しましたが、今回はファインモールドさんのキットで、昭和のOD色時代の戦車を作成しました。細部にわたって取材されており、ディテールが細かく作り応えのあるキットでした。おまけにモデリウムさんから機甲科隊員セットが発売され、これは作らなくては！と妙な使命感で作りました。

OD色の61式戦車は、私が小学校から高校まで高田駐屯地記念日で眺めていた思い出の戦車で、第12戦車大隊のトラのマークが印象深いです。でも今回は保有している写真集の中にあつた真駒内駐屯地時代(現:北恵庭駐屯地)の第11戦車大隊の車両を作成しました。

第11戦車大隊は、旧陸軍の戦車第11連隊の11を漢字にし、十一を「士」に見立てて「士魂部隊」と呼称していたことから、それに由来して「士魂」の愛称を砲塔に記載しています。自衛隊戦車マニアの中でも人気の高い部隊です。士の魂・・・勇ましくてカッコいいですね。



61式戦車は昭和の戦車を代表する戦車で、ゴジラと戦ったり、映画「戦国自衛隊」や「僕たちの7日間戦争」とかで出演していました。もちろん本物ではなかったのですが。

戦後の国産戦車第1号で、どこか旧軍戦車に似ています。マフラー周りのグリルやねじ止めの前面装甲板とか…。T字型の砲口のマスルブレーキや飛び出した砲塔後部も特徴です。



以前の61式戦車の作品紹介でも述べたのですが、私はこの戦車を操縦したことはなく、教育で射撃を実施した思い出しかありません。衝撃がT字マスルブレーキで真横に来るので、並んだ横の戦車から観測する時に、砲塔から顔を出していると痛かったのを覚えています。



小学生の頃の目線から見るとこんな感じかな。大きくて強そうと感じましたね。



モデリウムさんから発売された機甲科隊員です。車長と操縦手ということでしたが、戦闘訓練時は操縦手はハッチを閉めて密閉操縦をし、装填手は周囲の警戒と安全確認のためハッチを開放することが多いので、操縦手を装填手として運用しました。服装も旧迷彩服として昭和感を醸し出してみました。モデリウムさんもよく取材されているのがわかります。とても自然な姿勢です。



旧迷彩服・・・私は結構好きだったんですけどね。初めて着た時には「あぁ、憧れの迷彩服！」と感動したのを思い出します。



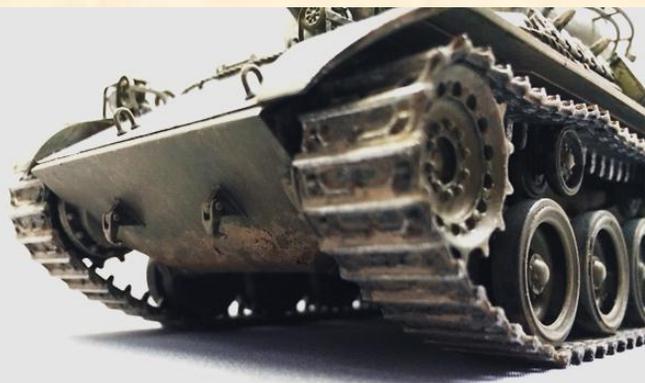
ハッチの横は乗員が足に付いた泥を「トントン！」と叩いて落とすので、このように付着してきます。



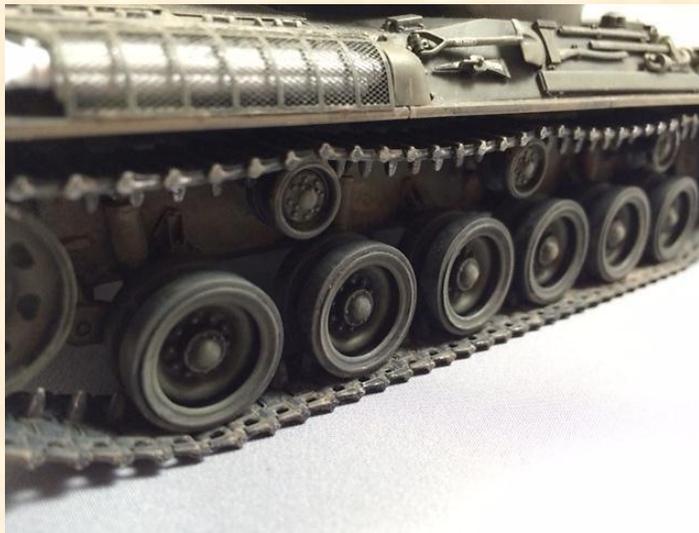
操縦手ハッチ周囲や車体や砲塔の上で、乗員が歩くところは特に泥が付着します。しかし、ハッチの縁に泥がつくと密閉性が悪くなるので、躰としてハッチの縁には泥を付けません。当然車内に泥を付着させたまま乗車すると怒られます！



車体上部に付着した泥や堆積した埃は風雨で下に流れ落ちます。ウェザリングスティックで泥を付着させて水を付けた平筆で延ばして、乾いてから濡らした綿棒で上から下に拭き取ります。何回もやるのですが、なかなか満足な出来にはなりません。



車体底部に付着した泥は、濡れている泥をウェザリングスティックの「マッド(暗い茶色)」で、乾いた泥を「ライトアース(明るい茶色)」で区別して付着させてます。



履帯はつや消し黒で基本塗装した後、ウェザリングスティックで荒く泥を付着させて水で延ばし、乾いてから鉛筆の芯を擦り付けて、仕上げに銀色をこすり付けます。特に起動輪の履帯との接する部分やセンターガイド部分を重点に、磨耗した地金の輝きを表現します。



私の好きな砲塔を横に向けたアングルです。

カッコいいな・っというっとりしてしまいます。

なんだかんだで、連休中に仕上げる事が出来ました。でもまだまだ押入れには未完成のプラモが山積みです。ペース上げなきゃ(笑)

さて、今回はここまで。次回は鋭意作成中です。

また、自己満足の世界にお付き合いくださいな。